

# 2014年度自己点検・評価報告書(シート)

## 【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

### 《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

#### I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学研究科
大項目	0 理念・目的 (研究科)
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

#### II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

##### 《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 4つの研究分野(聖書分野、歴史・文化分野、組織・思想分野、実践分野)とその内容について、研究科の内外に周知を図ると共に、神学研究科の理念・目的との関連について定期的な検証を行う。	→履修モデルの作成と公開(WEB等の広報媒体への掲載、履修指導への反映[心得に掲載])	C	C	B	A	A
2. 上記研究分野を基礎とした履修コース(キリスト教神学・伝道者コースおよびキリスト教思想・文化コース)それぞれの意義付けを、カリキュラム編成に生かす。(博士課程前期課程)	→コース名称の変更とカリキュラムの改訂	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

##### 《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 前期課程においては、カリキュラム研究委員会(研究科)、部長室委員会・研究科委員会の審議を通じて、履修コース別かつ研究分野別に「履修モデル」を作成(2011年度)、WEBサイトおよび研究科『履修の手引』にて公開している(2012年度)。後期課程においても、「学位取得までのプロセス」を作成し、毎年のノルマを明示しつつ論文作成への道筋を具体化している。以上から2012年度までに本目標はほぼ達成されたものと考えている。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 前期課程の履修モデルは「学位取得までのプロセス」とともに学生に修了までの道筋を明らかにし、履修・論文指導に活用するに至っている。また後期課程の学生も毎年度、学会発表を積極的に行うなど論文執筆に向けて着実に研究を進めており、一定の成果があったものとする。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2015年度に予定するカリキュラム改正に際して、カリキュラム研究委員会(研究科)において「履修モデル」「学位取得までのプロセス」を改めて検証し、新たな明示方法を検討する。さらには、研究科の理念・目的の適切性についても文言整理を含めて再検討し、より効率的に理念を体現する履修体系の構築を目指す。それにより、伝道者育成および研究者育成に資する施策を実現する。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学士課程における「基督教伝道者コース(旧基督教神学・伝道者コース)」の完成年度(2013年度)に際して、博士課程 前期課程についても課程の修了要件とそれに見合ったコース名称の再検討を、カリキュラム研究委員会(研究科)、学部長 室委員会・教授会で議論している(2013年度～2014年6月)。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2015年度から前期課程におけるコース名称変更(「基督教神学・伝道者コース」を「基督教伝道者コース」に変更)を行 うことが、研究科委員会で承認された(2014年3月)。前期課程の修了要件については一部議論が継続していたが、2014年 6月にはほぼ収束するに至っている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 前期課程においては理念・目的の適切性を再検討するとともに、コース制の意義を再度検証する。それにより、伝道者育成 および研究者育成に資する施策の議論につなげる。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆